

鎖が守る夏の川

★滋賀県 湖北 北川水系
☆天増川

「今日は3人」

やたらと猫がうるつく土間口で魚券を購入する時、おばさんはいつも笑顔で運出の我々に入渓者の人数を教えてくれる。

小走りで鎖のゲートへ向かうおばさんの後からゆっくりとゲートへ向かい、鎖を空けてもらって林道に入る。

その昔、川には鎖のゲートなどなかった。

まだ20代半ばのサイクルノスターボジムニーで



大阪から喘ぎながらも悲惨な状況で到達……魚券を購入したその場でハブをロックして4WDにし、川からがこの車の真骨頂とばかりに地道の林道を釣具をひっくり返し

ながらも爆走したことを思い出す。

当時から入渓者はかなり居て、釣荒れも早く、今以上に腕が未熟だったこともあり……全く魚影すら確認できなかった。

丁度その頃、釣りとは無縁の弟がジムニーとニーブーツを貸せと言ってきた。聞くと会社の上司と溪流釣りに行くと言う……ホホウ？とばかりに貸してやると、塩焼きサイズのあまごを2匹以上釣って帰ってきた。ひと月ほどして、また貸せと言う……あいよ！と貸すとまたまた2匹以上の土産を下げて帰ってくる。

こうなるとタダでさえ釣れないフライフィッシャーの私としてはいい加減無視できなくなってきた。

「どこの放流釣り場や？」

「川……細いで……山の中のまたげる様な小さな川や……」

「どこや？」

「天増とか言うてたわ……金払って地道をどんどん川沿い上がったな……それから車停めて山に入ると湧き水があってその筋に沿って上がる内に小さな川になんねん……兄貴のフライなんか無理やで……枝の隙間から竿だすねんもん……」

「なに……天増？……どのあたりや？」

「橋の上手……」

「何番目の橋や？」

「わからん……行っても絶対わからんわ……こ

の前も車停めてから入り口見つけるまで30分以上かかったもん……その前も入ったは工が湧き水がみつからんかって、一度降りてから入りなおしたさかい……ワシー人ではよう行かんわ……」

にわか釣り師の弟が、例え餌でもこれだけ釣れて、俺の毛鉤には全くダメとは素直に認める事ができず、躍起になって通ったが、何度行っても結果は同じ、私のフライには全くダメだった。

弟が通ったポイントも本流の脇では伏水流になっていくらしく、それらしいところを上がったも見つからず、かといって枝谷でフライが出る状況にもなく、いつしか愛想をつかして行かなくなり、暫く忘れられた川となっていた。

ある年の6月半ば……そろそろ愛知も安曇もしんどなってきたなあ……どこかないんか？ エエと……と仲間内で釣り談義、「今からはバスで我慢せんとしゃないでえ……関西圏は6月頭で釣り切られておらんのとちゃうか？」毎年、この時期になると釣り場探しで盛り上がるものの、結局断念してバス釣りに高していた。

そんな時、何かの拍子に天増の記事を目にした。「何？？鎖のゲート？」様々な記憶がよみが

えり、ピンと来た。

「これは行けるかもしれん・・・確かに無銭釣りが多いと嘆いてはったし・・・確か解禁は遅かったし・・・鎖が魚を残すかもしれん・・・しかし、道・・・乗用車で大丈夫かなあ・・・舗装したんか?・・・まさかなあ?・・・」

その年の夏・・・7月の声が近い梅雨の晴れ間に勇んで出かけた。

「今日は8人・・・」鎖のゲートを空けてもらい、記憶も薄らぐ林道を登り、このあたりで試そうか?と満を持して投じたフライに意図も簡単にイワナが釣れた。それからこは私にとって夏の川となっている。

■天増川へのご案内

私は5月以前は行ったことがないが、釣り仲間によるとGW前のポカポカ陽気の日はそれこそパラダイスそのものらしい。

堰堤なども全くなく、上流域にしては比較的落差も少ない。加えて川沿いに林道が続き、夏でも比較的釣りやすい川と言える。

ゲートから少し上手に「一の橋」、暫く上がって「二の橋」、延々上がって「三の橋」、またまた上がって「四の橋」、少し上がって「五の橋」と延々2km以上の懐が深い川でポイント探しには事欠かない。

ただし、その前年の台風や雪、そしてその年

の梅雨の豪雨など、林道の状況と乗り入れる車によって上げれる範囲が決まってしまい、そこだけが非常に難しくリスクを伴う川でもある。

ある年は2WDの乗用ワンボックスで「五の橋」の上手まで行ったこともあるが、翌年は4WDのマジ車でも「二の橋」まで行けなかったこともある。

いくら鎖が張られたとは言え、やはり持ち帰り釣り客の方が多い。「二の橋」の上手まではイワナやヤマメも釣れるが、もっぱら放流あまごが中心で、それが自当りの釣りが多く、夏ともなれば魚が抜かれてあまり残っていない。

私としては「三の橋」から「五の橋」までが天増核心部と考えている。特に「三の橋」上流は川原も開けて気持ちが良い。

今でも時々、弟があまごをガッポリ釣った秘密の谷はこの辺りではないか?と考えたりもするが、未だにどこかはわかっていない。

今、このあたりはイワナがメインであまごは釣ったことがなく、ヤマメが混じり楽しめる。

ただし盛夏トピーカンとなればさすがに泡の下にもぐりこんでなかなか出てこない。かといってイブニングなどを自論むと帰りの林道で獣に出くわす恐怖も待ち構えている。

最近、イワナに変わってヤマメが釣れやすくなってきた。稚魚放流も含めて放流はあまごとイワナのみと聞いているので、「二の橋」のヤマメは

昔からの在来種か・・・遙か下流で放流された稚魚が遡ったものだろうと察したりもする。

魚は堰堤もなく遡れても、人間様は鎖のゲートこそ料金で解決できるが、林道に出現する倒木や土砂崩れで遡ることを阻止される川でもあり、できれば軽自動車のクロカン4WDがベストだろう・・・

2006年 7月